里山があることで、人は自然と共に生きていける

森林を含めた自然環境を適切に保全・管理し、人と自然との間に起こりうる問題をとりもつ「森林組合」や「猟友会」の皆さん。

そして持続可能な地域としていくため、里山でしか体験できない魅力を生み出し、地域間交流を促進する地域団体の方がた。

さまざまな方に話を聞いて、見えてきたのは、**「里山」が存在し、そこに関わる人たちがいることで、初めて人と自然は共生することができ、私たちは自然の恩恵を魅力として享受できる**、ということ。

人と自然は切っては離せない。そうした中で、人と自然を地続きでつなげる里山の存在は、ますます大切な場所となっていくのではないでしょうか。

自然災害から暮らしが守られ

おいしい野菜を食べることができ

美しい自然を全身で体感できる

▲特集冒頭の画像は、児玉町太駄にある「花桃と水仙の丘」。管理をしている中里さんの努力で維持されているこの美しい風景も、次の担い手がいなければ、なくなってしまうかもしれません。

▼猟友会の担い手が少なくなれば、人と自然の間にある均衡が崩れ、増えすぎた有害鳥獣により、いずれは人の住めない土地が増えてしまいます。

里山にも、高齢化による担い手不足の影が迫る…

私たちにとって、大切な存在である里山。

しかし、里山地域周辺では高齢化が進み、地域の担い手不足が深刻化しています。里山に関わる人たちが減れば、おのずと見えてくるのは、人と自然の共生関係の崩壊。森林の生態系への影響や、私たちの暮らしへの深刻な影響が予想されます。

里山を持続可能な地域にしていくために…

里山の担い手不足が引き起こす問題は、決して地域外に住む私たちにとっても〈対岸の火事〉ではありません。

同じ「まち」の中にある美しい景色や文化を守っていくために、自分たちに何ができるのか。

些細（ささい）なことでも**考えること**が、大切な里山を、そして私たちのまちを守っていくための「**大事な一歩**」となります。

人と自然をつなぐ

もともとは同級生5人の思い付きで始まった地域活動。その思い付きが、美しい里山の景観や文化を守る原動力となっている地域がありました。

ネットワークひがしこだいらの皆さん

成身院百体観音堂からの眺望

石神神社での獅子舞

NPO法人ネットワークひがしこだいら

地域愛が、人と自然が共生する里山の美しい景観や文化を守る

地域のために

本庄市の名所として名高い〈成身院百体観音堂〉を中心に、高窓の里など里山の原風景が広がる小平。

この地域を守るために奔走してきたのが、ネットワークひがしこだいらの皆さん。「私たちが30代の時に、何か地域のために活動できないかということで同級生5人で〈5人会〉を結成したのがきっかけなんです」。創立について語るメンバーの立花勲さん（左上写真右から2番目）ら有志により、地域活動の第一歩として始めたのが、あじさいの植栽でした。

今では、榎峠に向かう林道沿い約2kmに渡り5千本のあじさいが咲き誇る〈あじさいの小路〉として、訪れた方を楽しませる名所となっています。

受け入れる土壌の深さ

その後もネットワークひがしこだいらの皆さんは、里山と伝統文化を守りながら、人と自然の共生につながる地域づくりを進めていきます。

現在約30名の会員がいるネットワークひがしこだいら。代表の清水義雄さん（同右から3番目）は、地域の特徴のひとつとして新たなチャレンジをするために移住してくる方が多いことだと話します。

「空き家に移住してきて、新たに有機栽培に挑戦している方もいます。ぜひ、こうした移住者の方たちとも手をとりあいながら、活動を受け継いでいきたいですね」。

〈地域愛〉が、人を引き付ける

小平の魅力は何かと聞くと、口をそろえて「住人の地域愛が深い」と答えた清水さんたち。この小平を愛する皆さん一人ひとりの心が、地域を磨くことで魅力的な里山の景観や文化が守られ、今日に至るまで人を引き付け続けているのではないでしょうか。

「小平に来ると皆さん〈こんないいところがあったんだ〉と言ってくれます。まずは知ってもらって、訪れてもらって、最終的に関わってくれるようになればいいですね」。

地域活動を次世代へつなぐ ネットワークひがしこだいらの皆さん

今年は、児玉高校が取り組む「こだま学」の一環として、あじさいの小路の手入れを生徒に伝えることができました。

Look 小平を散策するなら、まずはココ！

本庄市観光農業センター

成身院百体観音堂の拝観受付や散策マップの配布、BBQ広場の受付も行っています。

定休日：木曜日

場所：児玉町小平653

電話番号：72-6742

※詳しくは、右記コードへ。